



題字：松本敏夫 写真：宮内有加

巻頭言	戸山 芳一	1	鹿俣山	根本 忠一	13
トピックス			野麦峠・乗鞍岳	吉田 由美	13
「埼玉やま塾」通信 11月号	稲越 洋一	2	ボランティア委員会		
群馬支部主催あかぎ林間学校	若林 優子	3	山の日清掃登山	若林 優子	14
山行委員会			自然保護委員会		
十文字峠越え	齋藤 哲也	4	自然観察山行 会津駒ヶ岳・尾瀬	山崎 保夫	15
Welcome to 山研	稲越 洋一	5	安全登山委員会		
甲武信ヶ岳	田中 健介	6	乾徳山の避難小屋体験	飯塚 雅信	17
槍ヶ岳	秋山 隆弘	7	彩の山研究会だより		18
雁坂峠越え	町田 美春	9	ペンリレー	田中 利昌	19
鹿島槍ヶ岳	宮内 有加	9	インフォメーション		
八甲田山・岩木山	朝井 紀久子	11	事務局より	轟 涼	21
平日山行倶楽部			編集後記	坂倉 理恵	22

巻 頭 言

副支部長 戸山 芳一

日本山岳会は明治38年（1905年）に創立され、今年で120年になりました。

埼玉支部は、平成22年（2010年）に発足して、15年の節目を迎えることができました。これもひとえに、日本山岳会（本部）をはじめ、ほかの山岳団体のご理解とご支援により、また、歴代の支部役員はじめ、支部会員全員の不屈の努力の賜物であり、会員の情熱に敬意を表し、さらなる飛躍を期待いたします。

始まりは、純粋に登山を楽しもうという仲間の集まりの山岳会が、今は公益社団法人として公益事業をしなければなりません。山を楽しむ登山愛好家の団体が変わりありません。その活動の中心は「山に登る」ことです。自分の足で、楽しみ、感動、達成感を求めて頂上を目指して歩く一登ること自体を目的とした仲間の集団であります。

ネットで検索すると「山岳会とは登山や山にまつわる活動を目的とした同好の士の集まりです。地域、職場、学校単位など様々な形態があり、経験豊富な会員から技術や知識を学べるほか、同じ目標を持つ仲間との出会いや、安全な登山を支え合う関係を築けることがメリットです。活動内容は、沢登り、岩登り、ハイキング、自然保護活動まで多岐にわたり、初心者から上級者まで対応する会もあります。」と記載されています。

現在の日本山岳会埼玉支部は、形式上はここでの「山岳会」と同じように見えますが、内容（中身）はいつの間にか変わってしまったのではないのでしょうか。登山では、一番重要な仲間との信頼関係が希薄になっていないか、ベテラン会員からの知識、技術の継承がなされているか、会員一人一人が山に登るための準備、努力を積み重ねているか、今一度考えてみて下さい。埼玉支部は登山ツアー会社ではありません。登りたい憧れの山に登らせてくれる組織とはちがいます。山行リーダーは旅行会社の添乗員やガイド登山のガイドではないのです。会員一人一人はツアー登山の客でも、ガイド登山のクライアントでもありません。埼玉支部はパーティー登山を実践する集団なのです。憧れの山に仲間とグループを組んで安全に登山を楽しみ、下山まで行動を共にする。リーダーを中心に統率の取れた登山を行い、お互いの体力や状況、技術を配慮し遅れがちな仲間に配慮し、ペースを調整し、途中でメンバーが分かれぬ、離れないことが重要です。

支部会員それぞれがもう一度「山岳会」の本質をよく考えて、「山」を学んでほしいと思います。山が好きであれば努力できるはず。次の埼玉支部20周年に向けて安全な楽しい登山ができる埼玉支部をめざしましょう。

※支部会員より、支部の重職に就かれる方々の色々な声をお聞きしたいとのご意見を頂戴し、今回は戸山副支部長に巻頭言をお願いしました。（支部報担当）

トピックス

2025年度第7期「埼玉やま塾」通信11月号

埼玉やま塾事務局 稲越 洋一

「埼玉やま塾」は、5月10日の机上講習を皮切りに、第7期を開始しました。

講師の平川会員を始め、実技サポートの飯塚安全登山委員長、スタッフとして参集頂いた13名で、各回の講座を分担し講習を進めました。

今期の塾生の構成は、地域的には都内から2名、群馬県から1名、他は埼玉在住の方で、講座の山域としては、群馬の方はご負担があったものの、問題なかったものと思われます。

机上講習では、熱心にメモを取って聴講されており、欠席の方にも配慮し、前期同様、ビデオ撮影による講義録の事後配信(YouTube限定公開)は、欠席された方だけでなく再度見直してみたい受講生にも好評でした。

実技講習は、計画通り4回実施いたしましたが、各講座に設定されたテーマに合わせた山域を選定しており、同時に、技術的・体力的なステップアップ登山となる事を目指しています。塾生の登山レベルは、当然ながら差異があるため、各講座(山域)においては、塾生一人一人の技量を見極める事は、スタッフにとって大切な役割の一つとなります。安全登山を考える上で、机上講習においては「山域の選定」の考え方を自覚して頂く事、実技を通しては自己のレベルを自覚し「行きたい山ではなく登れる山」の考え方を理解していただく事が重要として、講座を進めました。

実技講座が2回目以降になると、塾生同士やスタッフとのコミュニケーションも活発となり、適正な登山ペースのため、歩行中も会話が途切れる事はありません。会話に夢中になり、足元がおろそかにならないか、要らぬ心配も有ったとか無かったとか。しかし、全ての山行で事故もなく終える事ができた事は、山行を通して、お互いの声掛けが有ったからでしょうか。

例年、実技の第1回・第2回は梅雨の時期で降雨が心配されるのですが、今期は、雲取山が降雨による悪天候であったものの、他はそこそこの天気、例年猛暑が残る9月の伊豆ヶ岳も、暑さが和らぎ、最も良いコンディションでした。講義の都度、「やま塾では降雨でも『普通に』山行を実施しますよ」と話しておりましたので、雨の雲取山も、万全の対策で楽しく終える事ができました。

反省点としては、やま塾の対象山域について、参加される方の技量が追いつけなかったケースが、前期と同様、確認されております。募集案内には、山域の技量レベルは明示していましたが、来期の改善点としています(標高差1,000mと言っても、標高差を意識した事がないと判断が難しい)。

最後に、スタッフとして参加された皆さま、それぞれご自身の山行計画やプライベートなご予定が有る中、時間を作ってご協力頂きました事、改めて感謝いたします。毎年の繰り返しとなりますが、新しい山仲間を迎え入れ、山の色々な楽しみを共有しながら、ご自身のレベルアップにも繋がりますので、来期の「埼玉やま塾」へのご支援、ご協力を改めてお願い致します。

大山塾長(支部長)、轟事務局長、平川講師、スタッフの皆さま、御疲れ様でした。

【来期のスタッフ募集は、12月頃から開始予定です】





地図読み(大高取山)



登山道分岐時の注意(大高取山)



ポールの使い方(武甲山)



歩行時の注意事項(武甲山)



岩場の通過(伊豆ヶ岳)



急斜面の通過(伊豆ヶ岳)



分岐時の地図読み(雲取山)



終了式(雲取山)



第1回大高取山



第2回武甲山



第3回伊豆ヶ岳



第4回雲取山

【2026年度スケジュール】

2月7日(土)キックオフMTG
2月28日(土)～3月1日(日) スタッフ研修会
5月9日(土) 机上1回目
5月30日(土)実技1回目
6月13日(土)机上2回目
7月11日(土)実技2回目
9月12日(土)机上3回目
9月26日(土)実技3回目
10月3日(土)机上4回目
10月24日(土)～25日(日)実技4回目
11月28日(土)打ち上げ

群馬支部主催 あかぎ林間学校

副支部長 若林 優子

・ 和7年8月17日(日)-18日(月) 晴れ

実施場所：前橋市赤城山(群馬県)

参加人数：埼玉支部3名(磯崎、市川、若林) 群馬支部11名、東京支部1名、一般11名 合計26名

日程：

1日目 オリエンテーション

名札作り-テント体験-アコーディオン演奏-ジャンボ上毛かるた

2日目 登山

10:15 駐車場-10:45 荒山高原-11:15 火起山-12:00 竈山-12:20 鍋割山-

13:00 竈山-13:05 火起山-13:30 荒山高原-14:15 駐車場

行動時間 約4時間30分、歩行距離 約5.3km、高低差 登り466m 下り435m

群馬支部が主催、埼玉支部・東京支部が協力という形で開催する「あかぎ林間学校」を実施した。前回のプレ登山後、打ち合わせを重ね、いよいよ本番である。群馬県の国立赤城青少年交流の家を利用し、1日目のオリエンテーション会場および宿泊地、2日目の登山の拠点とした。

前回すでに顔合わせをしている子、初めて会う子もいたがすぐに打ち解け、皆仲良くなっていた。オリエンテーションの最初のメニューである木の名札作りワークショップでは皆、限られた材料、時間の中で創意工夫しており、それぞれの個性がでた素敵な作品ができあがった。テント張り体験ではテントに泊まったことのない子も多く、皆大興奮、大盛り上がり。全力で愉しむ姿勢、元気に圧倒されっぱなしである。

夜はアコーディオン演奏家を招いて生演奏とジャンボ上毛かるたを行った。アコーディオンは山の歌と馴染みのあ

る歌を中心に演奏され、演目の「手のひらを太陽に」では手拍子も加わり大合唱に。ジャンボ上毛かるたでは保護者の方、アコーディオン演奏家さんも加わり、盛り上がった。

2日目は今回の目的である赤城山登山を実施。とにかく暑く、風もなく大汗をかきながらの大変な行程であった。途中、植物や鹿の食害の観察をしたり、快晴で展望がよかったため谷川や浅間、尾瀬の山々、高崎の町並みが眺められ、楽しみながら登ることができた。炎天下の中、やはり疲れと緊張、暑さから調子の悪くなる子もはじめ、残念ではあるが安全優先で今回の最高地点である火起山で下山する子と、目的地の鍋割山まで行く子とパーティーを分けて行動となった。これで子供たちが山を嫌いになったらと心配をしたが、後で火起山で撮った集合写真を見ると、子供たちは皆とてもよい笑顔をしており、ほんとに安心した。

下山後は群馬支部 根井支部長より参加者に立派な修了証と参加賞のチキンラーメンが授与された。開催前は不安が大きかったが、群馬支部の皆さんの細かいところまで練られた段取りや豊富な経験、そして子供たちの元気、優しさに多くの場面で助けられ、無事に終えることができた。

群馬支部さん、子供たちから多くのことを学ぶことができた2日間であった。今回の活動をきっかけに、今後も群馬支部との交流を重ねていければと思う。



山行委員会 山行報告

十文字峠越え

山行委員 齋藤 哲也

支部設立15周年記念山行・歴史文化探訪登山①

日程：2025年6月14日（土）～6月15日（日）

場所：十文字峠（1962m）・十文字山（2072.1m）

天候：曇り一時雨

参加者：橋本久子 那須朋美 SL：田中利昌 CL：齋藤哲也 計4名

行程：6月14日午前9時55分 JR信濃川上駅集合

○6月14日（土）

梓山 10：45－11：55 毛木平 12：15－12：40 五里観音 12：45－14：40 十文字峠 14：45－15：00

十文字山 15：05－15：20 十文字峠 【歩行時間：4時間35分】

午前9時55分、参加者全員で真新しい村営駅舎のある信濃川上駅に降り立ち、川上観光タクシーで梓山へ。梓山からは、初夏の曇り空の下、サニーレタス等の高原野菜畑が広がる1本道を歩き、毛木平へ。毛木平からは、弱雨の中、甲武信ヶ岳への山道を分け、十文字峠を目指す。最初の里程観音である五里観音前で旧大滝村（現秩父市）までの雨中登山の安全を祈願する。この後、沢沿いを進み、急登の八丁坂を登り切ると稜線に出る。稜線を進み、程なくして、十文字峠に到着。十文字峠からは空身で十文字山までピストン。十文字山では静寂な奥秩父の深林美を十分に堪能。そして、昭和の香りがする十文字小屋へ。小屋周辺の石楠花はシーズンの終わりを告げていたが、ランプに照らされたストーブに濡れた体が温められ、温野菜中心の夕食で疲れを癒し、明日の峠越えに備えた。なお、懸念のあっただけに被害を受けることはなかった。

Welcome to 山研(徳本峠)

山行委員 稲越 洋一

期日：2025年7月5日（土）～6日（日） 1泊2日

場所：北アルプス 徳本峠（2,134m）

天候：7月5日 曇り～快晴（夜間は降雨）

7月6日 快晴～曇り

参加者：町田千絵、国崎智、水野千秋、小林栄子、田中健介、天池稚力、
SL 秋山隆弘、CL 稲越洋一 計8名

行程：【1日目】15:00 山研集合（泊）

【2日目】6:00 山研～7:10 明神（休憩）7:25～9:30

徳本峠 10:00～12:00 明神（休憩）12:50 山研（解散）

「山研」体験を絡めた支部山行は、主に新入会員や山研未体験者をターゲットとして2021年度から始められたと記憶しています。人気の山岳リゾートである上高地と、日帰り山行が可能な「百名山・焼岳」をテーマとした訳ですが、時期的に梅雨時期である事から、降雨時の焼岳登山は新入会員にとって厳しいものがあり、又、焼岳はしばしば噴火警戒レベルが上がる為、過去2度中止（代替プランに変更）となっています。よって今年は「山研」体験をメインとし、降雨でもリスクが少ない「徳本峠」山行を絡めた計画としました。但し、日程的に余裕のあるメンバー向けに初日をほぼフリーとして、前行程で個人山行等を組み入れる事も可能な行程としています。実際、初日の行動として、上高地を散策した方、西穂方面から下って来た方、涸沢から下って来た方、焼岳へ登って来た方など、それぞれのレベルで楽しまれた様です。

メインテーマである「山研」体験に於いては環境・設備など「想像以上！」と大好評でした。又メンバーの水野さん発案で追加の食材をプラスした食事喜ばれ、参加者の皆さん共々楽しい時間を過ごす事が出来たと思います。

2日目の行程は、復路の交通機関の時間を考慮し出発時刻を早め、雨上がりの爽やかな朝日の中、梓川沿いの探勝路を楽しみながら登山口へ向かいました。明神からの登山道は、一部、渡渉箇所の崩れがあったものの、整備されており、高山の稜線とは違った植生の高山植物など鑑賞しながら「誰にも会わず!？」徳本峠に到着、雲が掛かる前の穂高の峰々を拝む事ができた事は、早出のお陰でしょう。峠には島々方面から「ヤマメ」目当てで遡行してきたという猛者が3名居て驚きましたが、再び引き返していきました。

昼食後、順調に下山し、山研でデポした荷物を整理し解散いたしました。新入会員向けの山行として、改めて継続が必要と感じた次第です。



甲武信ヶ岳

山行委員 田中 健介

日程 : 6月22日(日)
場所 : 甲武信ヶ岳(2,475m)
天候 : 晴れ
参加者 : 磯崎、鈴木、関口、那須、宮崎、CL小玉、SL田中(健)計7名
行程 : 毛木平登山口 6:45 → 滑滝 8:45 → 千曲川・信濃川源流部 10:50 → 甲武信ヶ岳 12:00 → 千曲川・信濃川源流部 13:20 → 滑滝 14:30 → 毛木平 15:50 → 解散
(約9時間 約15km)

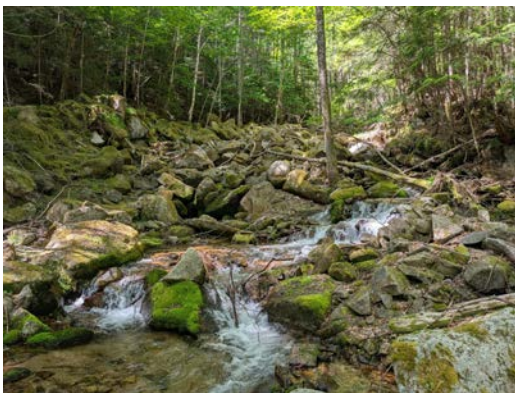
冬のある日、梅雨の最中となる今回の登山計画を聞いた時は、雨を半ば覚悟していました。しかし、当日は思いがけず晴天に恵まれ、高地の初夏らしい涼やかな気候のもと、千曲川・信濃川の源流を辿り、さらに山頂からは富士山の姿まで望むことができました。

出発は毛木平の駐車場から。晴れ予報の週末とあって朝6時半の時点で満車。路肩に多数の車が溢れていました。各地から集まったメンバーは車に分乗して現地集合。予定よりやや早めの行動開始となりました。

道中は溪流沿いの道を進みます。水辺に近づくとき空気がひんやりとし、苔むした風景が広がります。緩やかな登りが続きますが、水の流れは標高が上がるにつれて徐々に細くなり、源流地点では風呂桶程度の小さな窪みに清水が集まり、原初の流れを音もなく作り出している様子が確認できました。

そこは標高2000メートルを超える高地でもあり、高山病に苦しめられたメンバーはCLやベテランメンバーと共に下山し、残りのメンバーはSLと共に山頂を目指すことに。

ここから先は急登となり、標高差400mを一気に登ります。予定した時刻に登頂。山頂から見る富士には雪化粧がなく、途中、挨拶を交わした御仁が今日の富士は素肌美人！としきりに感嘆していたのが印象的でした。下山中、先行するメンバーと合流。標高が下がるにつれて高山病の症状も和らぎ、全員で毛木平に戻ることができました。



イラスト：橋本久子

槍ヶ岳

山行委員 秋山 隆弘

日程：2025年8月23日(土)～8月25日(月)

場所：槍ヶ岳(3,180m)

天候：晴

参加者：稲越洋一 町田美春 根本忠一 SL：岡部勇人・秋山隆弘 CL：齋藤哲也 計6名

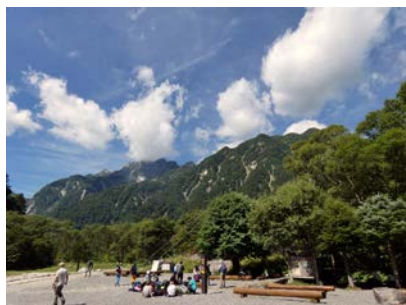
3日間の全行程、絶好の登山日和。太陽の光を浴びながら、心躍る山行になりました。

8月23日(土)

各自、上高地バスターミナルに到着後、槍沢ロッジを目指して出発！河童橋、明神館、徳澤園、横尾を巡りながら、少しずつ標高を上げていきます。途中の景色や仲間との会話を楽しみつつ、13時15分には全員無事に槍沢ロッジに集合しました。



河童橋



横尾



槍沢ロッジ

8月24日(日)

槍沢ロッジ 4:45－5:25 ババ平 5:40－6:30 三ノ沢 6:40－7:20 天狗原分岐 7:30－8:10 水沢 8:20－9:15 播隆窟 9:55 殺生ヒュッテ 10:30－11:15 槍ヶ岳山荘 11:25－12:00 槍ヶ岳 12:15－12:40 槍ヶ岳山荘 12:45－13:20 殺生ヒュッテ 【行動時間：8時間35分】

待ちに待った槍ヶ岳登頂の日！午前4時45分に薄明かりの中、槍沢ロッジを出発。槍ヶ岳登頂には1,300m程度の高度を上げる必要から出来る限り早く出発、歩行ペースを調整して休憩を多めに取りながら、正午頃の槍ヶ岳登頂を目指しました。ババ平、播隆窟、殺生ヒュッテに至り、殺生ヒュッテからは足慣らしのため、東鎌尾根を辿るコースに変更して、正面に槍ヶ岳を見ながら穂先下をトラバースして進み、登頂には余力を残した状態で槍ヶ岳山荘近くの取り付きに到着しました。山頂に至る岩場、鎖場、梯子などの核心部は高度感があり、手足の置き場所も限られていることから、初参加者には非常な勇気と決断が必要と思われましたが、三点支持を確実にを行い、危なげなく登頂出来ました。山頂はガスにより快晴ではありませんでしたが、それでも達成感に満ち溢れ、「来てよかった！」「参加してよかった！」と心から喜びを感じ、他の参加者には改めて感謝の念が生じました。槍沢を下り、13時20分、宿泊地である殺生ヒュッテに到着。予定どおりの山行となり、宿泊地では槍ヶ岳登頂を記念してささやかな懇親会を行い、登頂成功のお祝いと親睦を深めました。



東鎌尾根



穂先へ取りつき



垂直梯子



槍ヶ岳山頂



慎重に下山



殺生ヒュッテにて

8月24日(日)

槍沢ロッジ 4:45 - 5:25 ババ平 5:40 - 6:30 三ノ沢 6:40 - 7:20 天狗原分岐 7:30 - 8:10 水沢
8:20 - 9:15 播隆窟 - 9:55 殺生ヒュッテ 10:30 - 11:15 槍ヶ岳山荘 11:25 - 12:00 槍ヶ岳
12:15 - 12:40 槍ヶ岳山荘 12:45 - 13:20 殺生ヒュッテ 【行動時間: 8時間35分】

待ちに待った槍ヶ岳登頂の日! 午前4時45分に薄明かりの中、槍沢ロッジを出発。槍ヶ岳登頂には1,300m程度の高度を上げる必要から出来る限り早く出発、歩行ペースを調整して休憩を多めに取りながら、正午頃の槍ヶ岳登頂を目指しました。ババ平、播隆窟、殺生ヒュッテに至り、殺生ヒュッテからは足慣らしのため、東鎌尾根を辿るコースに変更して、正面に槍ヶ岳を見ながら穂先下をトラバースして進み、登頂には余力を残した状態で槍ヶ岳山荘近くの取り付きに到着しました。山頂に至る岩場、鎖場、梯子などの核心部は高度感があり、手足の置き場所も限られていることから、初参加者には非常な勇気と決断が必要と思われましたが、三点支持を確実にに行い、危なげなく登頂出来ました。山頂はガスにより快晴ではありませんでしたが、それでも達成感に満ち溢れ、「来てよかった!」「参加してよかった!」と心から喜びを感じ、他の参加者には改めて感謝の念が生まれました。槍沢を下り、13時20分、宿泊地である殺生ヒュッテに到着。予定どおりの山行となり、宿泊地では槍ヶ岳登頂を記念してささやかな懇親会を行い、登頂成功のお祝いと親睦を深めました。



天狗原分岐付近



河童橋で解散

今回は3,000mの高所で日差しの強い中での山行となり、高山病の症状が現れた参加者や、体力的に課題が残る参加者もありましたが、全員、無事に元気に下山出来て安堵いたしました。皆様、ありがとうございました。



モルゲンロート

雁坂峠越え

山行委員 町田 美春

日程： 9月6日（土）～9月7日（日）

参加者： CL 町田美春 SL 那須朋美 齋藤哲也 行方真由美 小島千代美 橋本久子 朝井紀久子

行程：

【9/6】塩山駅（8:45）→道の駅みとみ（9:40）→沓切沢橋（10:55）→雁坂峠（14:40）→雁坂小屋（15:00）（宿泊）
埼玉県では熱中症注意報が出ていましたが、道の駅みとみから登山道に入ると、とても涼しく快適な山歩きになりました。が、前日の雨により、予想よりも水量が多く渡渉には若干苦労しながら、早めの出発もあり、予定よりも余裕を持って雁坂小屋に到着する事が出来ました。

小屋の中も快適で、ゆっくりと自炊も行い、翌日の5時出発に備えて早めに就寝しました。

【9/7】雁坂小屋（5:00）→雁坂峠（5:15）→雁坂嶺（6:00）→雁坂小屋（7:00）→休憩後雁坂小屋出発（7:30）→樺避難小屋（9:48）→突出峠（10:30）→雁道場（11:11）→雁坂峠登山口（12:40）

早朝。日の出と富士山に感動しながら雁坂小屋から雁坂嶺までの往復後、雁坂小屋での休憩を経て1か所の渡渉と数か所のガレ場を注意して歩き帰路に着きました。



雁坂小屋



雁坂嶺



雁坂嶺

鹿島槍ヶ岳

山行委員 宮内 有加

1 日程 10月4日（土）5日（日）一泊二日

2 場所 北アルプス 爺ヶ岳（2,670m）鹿島槍ヶ岳（2,889m）

3 参加者 CL 宮内 有加、SL 小玉和孝、松尾渡、町田美春、行方真由美、宮崎則子、那須朋美、山崎保夫、水野康夫

4 天候 [10月4日（土）] 雨、時々曇、稜線上は風あり [10月5日（日）] 雨、稜線上は風あり

5 コースタイム

<行程計画>

4日（土）6:00 柏原新道登山口→10:40 種池山荘→12:00 爺ヶ岳南稜1→冷池山荘 14:00

5日（日）5:00 冷池山荘→7:30 鹿島槍ヶ岳南峰→10:00 冷池山荘→12:15 種池山荘→

16:00 柏原新道登山口解散

10月4日、5日、9名で爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳を登ってきました。

1日目、柏原新道登山口に5時50分に集合し、6時に登山を開始しました。集合時には、霧雨が降っており、レインウェアを着てのスタートとなりました。種池山荘に着くまで、降ったり止んだりのお天気でしたが、さほど激しく降られずに済みました。

出発から4時間弱で種池山荘に到着。到着直前に雨が激しくなり、雨で冷えた体を温めながら、種池山荘自慢のピザを皆で食べました。種池山荘で1時間ほど休んでいる間に雨も小雨になり、冷池山荘目指して出発しました。種池山荘を出ると、爺ヶ岳山頂に向けてガスが晴れ、黄色、赤色に染まった見事な紅葉を楽しむことができました。途中、爺ヶ岳中峰に登頂し、山頂から種池山荘を振り返ると、紅葉に染まった木々の中にオレンジ色の屋根の種池山荘が見えました。爺ヶ岳山頂からは、天気がよければ劔岳、立山が見えるのですが、今回は残念ながら見ることはできませんでした。

雨もあがり、ガスがかかったり、ガスが一瞬とれたりの天気の中、冷池山荘を目指しました。1日目のゴールである冷池山荘や翌日に登る冷池山荘から上の布引山に向けての稜線が見えると、歓声が上がりました。今年は紅葉の当たり年と言われるように、爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳の紅葉も素晴らしかったです。参加者皆さんの足並みも揃っており、予定より1時間早い13時30分に冷池山荘に到着しました。小屋では、暖をとりながら、山の話をしたり、ゆったりした時間を過ごしました。

2日目、真っ暗な中、5時に冷池山荘を出発し、鹿島槍ヶ岳南峰を目指しました。2日目も雨の中でのスタートとなりました。森林限界を越え、稜線歩きになると、雨、風が徐々に激しくなり、このまま山行を続けてよいのか迷う部分もありました。しかし、皆さんが元気だったこと、低体温症を心配するほどの寒さではなかったため、登山を続けました。出発から2時間弱で鹿島槍ヶ岳に登頂。ガスで何も見えませんでしたが、悪天候の中、登り切った充実感でいっぱいでした。登頂後、冷池山荘に戻り、デポさせてもらった荷物を詰め、下山開始。行きに通った道を引き返しました。爺ヶ岳への登山道がきつく、皆さん大変そうでした。しかし、爺ヶ岳中峰で6羽のライチョウの群れに出会い、疲れが一気に吹き飛びました。行きは爺ヶ岳の中峰に寄ったので、帰りは爺ヶ岳の南峰に寄りました。帰りも種池山荘に寄り、暖を取りながらピザを食べました。

2日目も、一日中雨でした。しかし皆さんで頑張り、予定より1時間早い15時に柏原新道登山口に到着することができました。登山道入り口で最後に記念写真を撮って解散しました。

1日目は7時間半、2日目は10時間とハードな山行となりましたが、参加者全員が悪天候の中、最後まで歩ききることができ、大きな自信になったことと思います。2日間、ありがとうございました。



鹿島槍ヶ岳山頂



爺ヶ岳中峰



柏原新道登山口



イラスト：橋本久子

八甲田山・岩木山

山行委員 朝井 紀久子

日 程：2025年10月18日(土)～19日(日) 1泊2日

＊場 所：岩木山(1,625m)、八甲田山(大岳1,585m)

＊参加者：塚越和子、松尾渡、土田利恵子、行方真由美、町田美春、磯崎佳奈、宮崎則子小玉和孝、林信行、田中利昌(SL)、稲越洋一(SL)、朝井紀久子(CL) 計12名

＊天 候：[10/18] 曇り→小雨。気温6～7℃。風速最高8m位。

[10/19] 中腹までは曇り時々晴れ。上部は曇り時々霧雨、2℃、風速最高14m位。

＊行 程：前泊のSL2名が前日にレンタカー2台を契約。10/18朝8:00JR弘前駅前に集合(前泊組と夜行バス組)、9:00岩木山8合目Pで自車組と合流。リフト利用。

10/18(土) 9:30 リフト上駅を出発→10:05 岩木山山頂 10:20→11:00 リフト上駅(下山)

※8合目駐車場P休憩所にて昼食→(車移動)→弘前城散策→(車移動)→16:00 酸ヶ湯温泉旅館(泊)

10/19(日) 7:50 酸ヶ湯温泉P出発→仙人岱→10:30 八甲田山(大岳)10:40→10:55避難小屋(トイレ、昼食)11:20→12:30毛無岱への下り階段→毛無岱→13:40酸ヶ湯温泉P(下山)。

※酸ヶ湯温泉に入浴し15:30出発(自車組とは解散)、17:00新青森駅レンタカー返却、解散。

雨と強風、低気温の予報が出ており、担当・参加者共に心配する中、防寒対策と、行程を最短ルートに計画修正することで催行を決定。初日の岩木山は、早々の降雨予想から、急遽SL提案によるリフト往復利用に変更、それが功を奏し、山行自体は1時間半でかなり時短となりましたが、裾野全体に広がる素晴らしい紅葉と、そして岩木山ならではのダイナミックな岩登りが体験できました。風はやや強めだった為、翌日の八甲田は大丈夫かと心をよぎりました。



鳥ノ海噴火口から岩木山遠望



岩木山神社(山頂)

早めの下山にて、その後、弘前城をたづぷり散策。現地ボランティアガイドの案内も得て充実した散策でした。宿泊は酸ヶ湯温泉旅館。八甲田山の麓である旅館の周りもダイナミックな色とりどりの紅葉で、いつまでも見惚れる程でした。部屋はリーズナブルな湯治棟に宿泊。温泉は乳白色の酸性・含硫黄泉で芯から温まり、混浴「千人風呂」は女性専用時間が設定され、別に男女別の温泉もあり、何度も利用できました。食事満喫、青森の日本酒を楽しむ参加者もいました。



弘前城



酸ヶ湯にて

2日目は、強風と低気温を考慮し、当初の大周回コースから、山頂ピストンに変更とし出発。見事な紅葉の中を進んでいくと、強風と霧が深まる中腹から上は、霧氷の別世界に感嘆の声が上がり大興奮でした。山頂では霧がかかり風も強まり、長く留まれない程でしたが集合写真を何とか撮り今後の行程をC L / S Lで再検討。当初は往路を戻る予定でしたが、皆さんの足取りが予想よりは早めだった事、強風も中腹以下は収まる予想から、往路とは違う毛無岱の雄大な湿原・木道へも行こうではないか・・・等を考え、参加者合意の下、ピストンではなく周回短縮コースを選択。避難小屋で一旦休憩後、暫くは冷たい向かい風に緊張する下山でした。標高が下がるにつれ風も弱まり、いよいよ毛無岱へ向かう階段を下り始めた時、視界に広がった大湿原と山腹の紅葉に、皆の感嘆の声が上がり足が止まりました。それは霧氷と強風の山頂を乗り越えて、この時期の八甲田から頂いたまるでご褒美のような黄とオレンジの輝きでした。熊対策も考えながら様々な体験も得た、素晴らしい青森百名山2座山行でした。



酸ヶ湯を出発



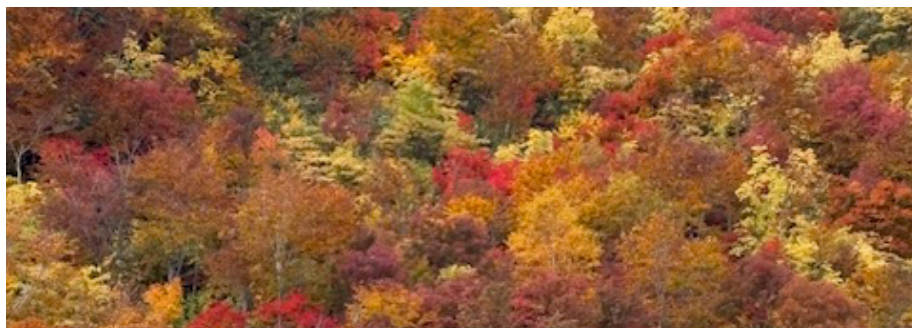
八甲田山の霧氷



八甲田山山頂



毛無岱



酸ヶ湯温泉前の紅葉

平日山行倶楽部

鹿俣山（かのまたやま）

根本 忠一

6月11日（水）今回初めて平日山行倶楽部の山行に参加した。平日山行倶楽部は埼玉支部の中でもとても人気がある。それがどんなものか見たかったからである。しかし当日の天気予報は「雨」、内心「やだなあ」と思い、CLの高橋努さんにメールをしたら「予定通り」との素っ気ない返事。あとで他の参加者に「雨天中止はない、それが常識」と教わった。7：30 若葉駅からマイクロバスで出発。9：45 玉原センターハウス（登山口）出発、12：50 鹿俣山山頂、15：30 登山口着。出発時点からの小ぬか雨が断続的に続き、道もぬかるみ、木道で滑らぬように注意を払いながらの登山である。ガツガツと登るわけではなく、もやに煙る圧巻のブナ林の美しさに見とれ、道ばたの雨に濡れたミヤマエンレイソウ、ハンカチノキ、ギンリョウソウモドキ、栃の木の花などの花々にふと目を止める。雨の登山は心が安らぎずっと歩いていた、そんな気持ちになったのは新しい発見であった。頂上間近になって一時雨が上がり見晴らしが良くなった。群馬の山並みは幻想的な雲海に包まれていた。下山の時には谷川岳の天神平スキー場も遠望できた。

ヒマラヤを知る熟練の方々何人かいて、どんな状況でも楽しむことを知っている。経験に裏打ちされた大人の登山である。「本当の自由はリタイアしてからよ」と誰かが言われた。登頂にこだわる登山でもなく、余生を楽しむ登山でもなく、毎日生きていることをかみしめるような思いで登るのだろうか、そんなことを学ばせていただいた。

人生の円熟期を明るく前向きに生きる先輩たちとまた一緒に登りたいと思った。

（参加者：浅田稔、稲越洋一、小島千代美、小玉和孝、坂倉理恵、立原由子、塚越和子、中島一則、根本忠一、野口勝志、橋本久子、東洋子、水野千秋、米山英三、渡辺徹也、清登緑郎（SL）、高橋努（CL））



雨に映えるブナ



鹿俣山山頂



谷川岳遠望

野麦峠、乗鞍岳

吉田 由美

9月25日～26日

1日目は、岐阜県と長野県の県境にある標高1,672mの野麦峠まで旧野麦街道を歩きます。この道は製糸工場へ出稼ぎに行く為に飛騨地方の12才からの若い女性達が列をなして歩いた道です。暮の休みには故郷へ帰る為に、雪の中を歩いて多数の女工が亡くなったそうです。懸命に働いた女性達に思いをはせながら、雨の中を登って行きました。

2日目は日本百名山の乗鞍岳へ。霧雨が降る中のスタートでしたが、歩いているうちにガスも流れて、青空が広がり雄大な景色が見えてきました。雲海の向こうに槍ヶ岳がはっきりと見えた時は感動！しばし写真タイムです。山頂直下の大きな岩を登っていくと、3,026m 剣ヶ峰山頂です。今朝の雨が嘘のような360°のパノラマが広がり北アルプスの山々が一望できて爽快でした。今回の山行では、紅葉も見られたし、宿泊先の乗鞍高原休暇村は食事も美味しく、温泉も気持ち良くステキな所で大満足でした。

（参加者：小島、立原、橋本、宮崎、塚越、町田美春、吉田湖恵、萩原、吉田由美、稲越、渡辺徹也、吉田寛治、野口、清登、高橋 15名）



野麦峠 女工像の前で



美味しいわねえ



畳平出発の朝



剣ヶ峰で快哉

ボランティア委員会

山の日 清掃登山

ボランティア委員会委員長 若林 優子

令和7年8月11日(月) 雨

目 的：山の日における対象となる登山道のゴミ拾い

実施場所：八ヶ岳 北横岳(長野県)

参 加：支部員 5名(稲越、松尾、根本、吉羽、若林)

コ ー ス：北八ヶ岳ロープウェイ山頂駅 11:15 → 11:30 坪庭 → 12:10 北横ヒュッテ → 12:25 北横岳(南峰) → 12:30 北横岳(北峰) → 12:40 北横ヒュッテ → 13:10 坪庭 → 13:30 北八ヶ岳ロープウェイ山頂駅

行動時間 2時間15分 距離 3.6km 高低差 のぼり 276m くだり 273m

活動成果：今回は山の日ということで、普段登らせていただいている山への恩返しという目的で清掃登山を実施した。実施場所が国定公園に指定されている場所ということで、ごみは落ちていないだろうという予想していったが、確かに粗大ゴミや不法投棄のような大物は落ちていないが、小さなゴミは結構落ちており、皆結構忙しかったと思う。ゴミの内容は、靴のソール、ストックのキャップ、飴の袋、ゼリー飲料の蓋、落とし物(手袋、手ぬぐい)などであった。特にゼリー飲料の蓋はロープウェイ駅で無料で配布されており、そのゴミではないかと推測された。靴のソール、ストックキャップは事前に点検、お菓子のゴミや落とし物は確実にザックにしまうなど一時間で予防できるものである。今回の山行にあたり、天気予報で大雨・強風で天候が荒れることがわかっていたが、催行、ルート判断がぎりぎりになり参加の皆さんには心配をかけてしまった。持ち物や集合のアナウンスなども含め勉強になった山行であった。お盆前の忙しい時期に、さらに荒天の中、一所懸命、山を綺麗にしてくださった皆さんに感謝いたします。



自然観察山行（会津駒ヶ岳・尾瀬）

山崎 保夫

1. 日 程 2025年7月26日～27日
2. 場 所 会津駒ヶ岳及び尾瀬
3. 参加者 CL 山崎保夫・東 洋子・平井 孝
4. 交通機関 東武鉄道「尾瀬夜行」・会津バス
5. 宿 泊 福島県松枝岐村 民宿「松源」

1日目（7月26日（土））天候 晴れ 下山時、登山口近くで雨に降られる。

会津駒ヶ岳滝沢橋登山口 6:30 → 登山口 6:55 → 水場 9:00 → 駒の小屋 11:00 → 山頂 11:30 → 昼食（駒の小屋直下ベンチ） 11:40 → 水場 14:40 → 登山口 15:30 → 滝沢橋登山口 15:50

尾瀬夜行（東武鉄道リバティ3両編成ほぼ満席）で会津高原尾瀬口駅から5:00発、会津バス（沼山峠行き）に乗車。会津駒ヶ岳滝沢橋で下車。いよいよ登山開始。途中の駐車場には20台以上の車が駐車してあった。登山口階段を登り始める。ここから登山道が始まる。駒の小屋と山頂が眺望できる所で休憩。ワタスゲの群生が広がっていた。頂上から下山後、駒の小屋直下のベンチで昼食を摂る。駒の大池にはカエル（名は不明）の音が聞こえていた。昼食と長い休憩を取った。天気模様が怪しくなったので下山する。

途中の水場を過ぎたあたりからぽつぽつと雨が落ちてきた。雨具を着用し足早に下山した。会津駒ヶ岳滝沢橋に下山して、宿に連絡するとご主人が車で迎えに来てくれて助かった。投宿後、近くの温泉「燧の湯」で汗をながした。宿のカードを提示すると入湯料金1,000円は無料だった。広くて良い温泉である。夕食は山菜の天ぷら（山椒魚もあった）と裁ち蕎麦や山の幸を主食にした料理で大満足であった。



ワタスゲの群生



会津駒ヶ岳山頂



駒の小屋と駒の大池

2日目(7月27日(日)) 天候 晴れ

宿 7:50 → (会津バス) 中土合停留所 8:05 → 尾瀬沼山峠 9:00 → 小淵沢田代分岐 10:00 → 小淵沢田代 10:40 → 尾瀬ビジターセンター 11:40(昼食) → 小淵沢田代分岐 12:40 → 展望台 13:20 → 尾瀬沼山峠 13:50 → 15:10(会津バス) → 会津田島駅 17:20 17:48 発浅草行きリバティで帰路

宿(民宿松源)のご主人に車でバス停まで送って頂く。8:05のバスで尾瀬御池経由で尾瀬沼山峠へ9:00に着く。木道を歩くと尾瀬への入り口で鹿の防護柵が設置されていた。またわなも設置されていることが掲示板から確認された。後ほど立ち寄った尾瀬沼ビジターセンターの職員の話では近年、シカの食害が酷く、特にニッコウキスゲの被害が甚大との事だった。小淵沢田代分岐から小淵沢田代経由で尾瀬沼湖畔へ迂回した。ここで鹿の糞と足跡を確認。花は期待できなかった。尾瀬沼ビジターセンターへ立ち寄り見学をした。その後近くのベンチで昼食を済ませ、足早に沼山峠へ向かった。途中さまざまな花に出会ったがより多くの花と出会うには6月から7月中旬あたりが良さそうだ。13:50に沼山峠に到着。15:10のバスを待ちながらひと時を過ごす。公共交通機関を利用したことで往復の運転の心配もなく心にゆとりができて楽しい2日間の山行であった。



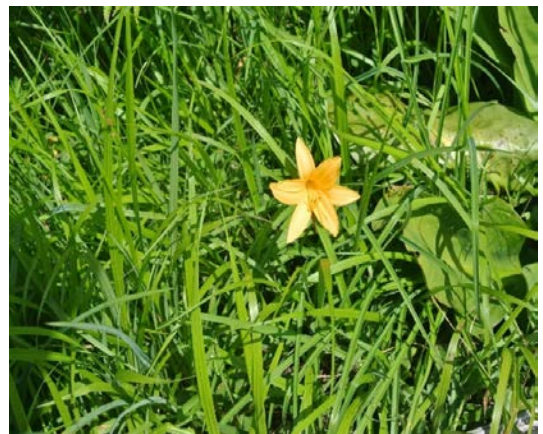
いよいよ尾瀬へ



尾瀬入口に鹿用の防止柵とわなが設置されていた



防護柵設置期間



ニッコウキスゲ



イラスト：橋本久子





乾徳山の避難小屋体験

安全登山委員会委員長 飯塚雅信

日程： 10月11日(土)～12日(日)

◆天候： 11日 曇りのち雨 12日 晴れ

◆参加者： 飯塚雅信(CL)、町田千絵、朝井紀久子、田中利昌、磯崎佳奈、小玉和孝

10月11日10:09、中央線山梨市駅着。

台風22号と23号の間隙をぬって乾徳山の避難小屋体験の始まりです。

山梨市駅発の西沢溪谷行きのバスは病院通院用のため、塩山駅を通るバスに比べ、安くて本数もちっと多い様です。



乾徳山登山口バス停で下車、車で来た田中さんと合流。

12日は歩きやすい道で、避難小屋泊まりが初めての町田さんが心配でしたが、調子よく歩いていました。避難小屋手前の錦晶水の水も勢いよく出ていました。

到着した小屋には大学生3人パーティーが先着していました。



月見岩まで来ると、笠雲のかかった富士山を筆頭に、素晴らしい景色にしばしの休憩をとりました。とても台風が近づいているとは思えなかったです。

山頂までの4ヶ所の鎖場や数ヶ所の梯子の岩場は、昔は軽やかに登った記憶がありますが、今は登るのが「やっとこさ」でした。それでも到着した乾徳山山頂から見た富士山や南アルプスは最高でした。

同じ稜線の道を戻りましたがなかなか難しい道でした。それでも何とか小屋につけば岩場はなくなり一安心。塩山行きの13:38のバスに乗ることが出来、帰路につきました。



イラスト：橋本久子

彩の山研究会だより



新雪と紅葉

宮崎 稔

【ある年の雁坂峠辺りの秋色】

昨夜の雨は標高の高い所では雪でした。

写真の稜線の向こうは雁坂峠に続いています。

秩父高校の逍遙歌に「雁坂峠の初あられ 荒川流れ
寒けれど……」という歌詞がありますが、そんな歌を
彷彿とさせます。

山の先輩から「山の髷をまわり込むと季節が変わる」

と言う話を聞いた事がありますが、実際に紅葉の山を

登っていた時、尾根を廻り込んだら枯れ木の山に変わり、なるほどと感心した
ことがあります。天候などに関わらず、山や溪それぞれに趣のある秋の山です。

昭和の山で

宮崎 稔

【只見川の籠渡し】

尾瀬の只見川上流で昭和52年頃に撮った「籠渡し」の写真です。ワラビを採
る出造り小屋の夫婦が山に入ると言うので同行させて頂きました。川までの道
(踏み分け)はワラビの群落でした。(現在 Google で見ると道は舗装されワラ
ビの原は蕎麦畑に変わっていました)

「落ちればほぼ確実に死ぬだろう」と言いながら只見川の激流を渡り、何事も
無かった様に戻ってくる生活に驚きました。今も有るかはわかりません。昔の
話です。



ジャカラランダの花を見に行きませんか

今山 健

ジャカラランダは南米原産の世界三大花木の一つで、鮮やかな青紫色の花を咲
かせます。私は5月下旬～6月中旬に西日暮里の近くに咲くジャカラランダを見
に行ってます。西日暮里駅の改札口(1ヶ所のみ)を出たら、正面に見える道
路(新幹線と高崎・宇都宮線の間)を田端駅方向に歩いて数分(約400m)、跨
線橋を渡ってすぐ左路側にジャカラランダの木があります。

樹齢数十年、高さ15m以上の高木です。葉はネムノキ状で、花はラッパ状、
青紫色のきれいな花を枝先につけています。通る人は皆んな立ち止まって「何
という花だろう」と見上げて通っています。

旧国鉄用地内にあり、社員の方が外国に行った時に見かけて日本に持ち帰り、
事務所などの庭木として植えられたものと思われます。

なお、最近は国内でも各地で、ジャカラランダ並木などとして、若い木が植えら
れているようです。



岳書紹介

小原 茂延



「たった一人の山」 平凡社 1998 刊 浦松 佐美太郎著

(1901-1981) 東京生まれ 東京商科大学卒 評論家
中学時代より登山を始める。1925 年ロンドンに留学、渡英中に松方三郎らとアルプスで活躍し、アイガー東山稜下部ルート開拓、ヴェッターホルン西山稜初登などの記録的登攀を行う。訳書にウィンパーの「アルプス登攀記」他。(カバー紹介より) 解説の西本武志氏(当時の労山理事長)が「…半世紀以上も前に書かれた文章とは信じがたい。その感性のみずみずしさ、表現のスマートさ。…」と。



「ピッケルと口紅」 ヤマケイ文庫 北村 節子著

「会報 山9月号」の東西南北欄に群馬支部の八木原罔明 JMSCA 顧問が紹介している映画「てっぺんの向こうにあなたがいる」(10/31 公開)は田部井淳子さんファミリーを描いているが、本書は読売記者だった著者が、田部井が1975年にエベレストに女性として世界初の登頂した際に参加(BC業務主)して以来、パートナーとして七大陸最高峰女性初の登頂に大半同行して支えた方で松本市出身。1979年3月刊の「ピッケルと口紅 女たちの地球山旅」の文庫版。

ペンリレー第11回

田中 利昌

「登山の魅力について」

登山を全くやらない人から、「登山って何が楽しいの?」と聞かれることがありますが、普段あまり考えることは無く、山を知らない人に理解してもらう必要は無いと思っていますが、自分なりに思いを整理してみました。

山の魅力の一つに、「発見」があります。それは大自然や動植物を発見することであったり、登山口付近にある巨大ダムに圧倒されたり、見たことのない文化・歴史に触れたり、また、山に行くことで、新たな自分を発見することもあります。「こんな難路を良く歩けるようになったな」とか「今の自分ではとても歯が立たない」とか。そういったことを発見する喜びは、登山の苦しさを上回ります。

歩くことで脳が活性化し、思考力や記憶力が上がるそうですが、登山も同じような効果があるのではないのでしょうか。日常では見られない雄大な景色や、澄んだ美味しい空気のせい、いつもの何倍も思考がクリアになります。登山中、他のことを考えずに大自然の世界の中に居られるし、山を歩いているときは前向きにプラス思考でいられます。山にいた間に考えていることの解決方法を見いだせたり、「くよくよすることは無い」と思えたりします。自分が納得できるまで物事を考えられる時間を普段はなかなか作れないものなので、その環境に身を置けることが山の魅力なのかと思います。そして、週末の登山の後は気分が一新され翌週の活動に弾みが付いている気がします。

そして、私にとって登山の最大の魅力は自分の成長を感じられることです。50代半ばで登山を始め10年足らずですが、最初に登った燕岳ではお年寄りや小学生に次々と追いつかれ、自分の体力の無さを痛感しました。山小屋まで4時間程度の標準コースタイムを6時間以上掛けてやっとの思いで登りました。ヒョッコ同然の自分の実力では全然思うように登れないことを思い知らされました。別に山の登れなくても生きていけるのに、「こんなに体力が無いとは思わなかった、もっと登れるようになりたい」という動機がかなり強いモチベーションを生んだのか、トレーニングに励むようになり、また、パフォーマンスが上がっていくのを感じます。また、それが楽しくてさらに続けてしまうというループにハマるのが登山の恐ろしいところ(魅力)だと思います。

岩場歩きは慣れていないのですが、避けて通れないし、腕試しのつもりで入門コースとして西穂高岳に挑戦しました。一般の登山道に比べ滑落のリスクは高まり、ルート選定に苦慮した箇所もありましたが、体全体を使って手掛かりや足の置場を考えながら一つひとつのピーク越えた後の達成感は大きく、新たな登山の楽しみを発見したような気がしました。また、笠ヶ岳、焼岳、前穂高岳等360°の絶景を眺めながら歩けることに大いに感動し、笠ヶ岳の横縞模様が世界的にも珍しい火山であったことも新たな発見でした。

遅まきながら始めた登山ですが、少しずつ経験を積んで皆さんとできるだけ長く登山ライフを楽しめたらと思います。

※次回は小玉和孝さんです。



西穂高山頂にて



白山にて



十文字峠にて

インフォメーション・イベントスケジュール

◆埼玉支部設立15周年記念講演会「あなたを待っている山がある」

登山愛好家・田部井政伸氏をお招きし、「妻は妻、私は私」というタイトルで講演をして頂きます。

後半は田部井氏と日本山岳会副会長の柏 澄子氏とのトークショーです。

お申込みは右のQRコードもしくは、支部会員はご自宅に届いたハガキから。

日時・場所： 11/29(土) ウェスタ川越（川越市新宿町1-17-17 TEL:049-249-3777）

※満席のため、申込み受付は終了しました

◆スキー同好会のご案内と入会のお誘い

JAC 埼玉スキー同好会会長の鳩山町在住の古川史典です。

このスキー同好会は、「会員相互の親睦等と埼玉支部の活性化」を目的として、9年前に設立しました。現在約20名の会員がおり、年1度日帰りスキー会と宿泊スキー会をゲレンデスキーをメインに楽しんでいます。昨年度は、日帰りスキー会をホワイトワールド尾瀬で開催しました。せっかくの機会ですので是非参加しませんか。その他質問疑問点等あれば何でも連絡下さい。お待ちしております。

古川連絡先→電話 090-3219-0860 アドレス f8008pk@rock.odn.ne.jp



11月下旬～3月

11/29（土）	埼玉支部設立15周年記念講演会	支	1/24（土）	埼玉県警山岳救助隊講演会	安
12/6（土）	健康登山 城峯山	山	2/11（水）	新入会員歓迎山行 長瀨アルプス	山
12/13（土）	忘年山行 龍崖山	山	2/14～15	積雪期② 天狗岳	山
1/10（土）	地域振興新年登山 高麗山	ボ	3/8（日）	歴史文化探訪登山 三峰山参詣道	山
1/17～18	積雪期①縞枯山・北横岳	山	3/14～15	積雪期③ 赤岳	山

※広く支部会員に募集をかけるもののみを記載しています。委員会のスケジュールではありません。
スケジュールは予告なく中止、変更になることがありますことをご承知おください。



埼玉支部会員 在籍者数及び異動

2025年10月15日現在

会員 125名 準会員 20名 計 145名

【入 会】（敬称略）

会 員	準会員
17534 水野 好章（川口市） 6月	A0666 伊藤 大介（上尾市） 7月
17552 吉本 千春（越谷市） 8月	

【退 会】

会 員	準会員
14085 相原 俊夫 5月	A0645 小玉 等 5月

新入会員自己紹介

＊水野 好章
このたび入会いたしました水野好章と申します。川口市在住66歳。
長年スキーを楽しんでおりますが、最近は体力の衰えを感じ、足腰を鍛えたいと思い入会しました。雪のない季節の山にも魅力を感じ、自然の中で新しい発見ができればと思っています。そして、山を通じて新しい出会い、仲間ができることを希望します。どうぞよろしくお願いいたします。

＊伊藤 大介
はじめまして。準会員として入会させていただいた伊藤大介と申します。
登山を始めて約7年になりますが、これまで登山ツアーに参加したり、夫婦あるいはソロで山行してまいりました。WEBにて埼玉支部の活動を拝見して、地元の皆様と一緒に登山を楽しんだり、また安全な登山技術を修得したいと思い、入会しました。今年はやま塾には間に合いませんでしたが、来年にはやま塾にも参加できればと思います。よろしくお願いいたします。

＊吉本 千春

普段は高尾山や御岳山にハイキングによく行く、登山初心者です。無線の勉強をはじめたところで、山で活かせるようにしたいと思っています。趣味はラジオを聴くことと星を見ることで、自然の中での時間を楽しんでいます。これから少しずつ経験を積んでいきたいので、どうぞよろしくお願いいたします

【編集後記】

初秋の季節に、出羽三山に行ってきた。修験の山が好きである。「生まれかわりの旅」と言われる三山へは、本当は還暦の年に詣でたかったが、一年遅れでの登拝となった。月山、羽黒山、湯殿山は、「過去」「現在」「未来」の世をあらわすという。三山ともに雨。特に月山登山では、激しい雨風の中での山行となった。田部井淳子さんを描いた映画「てっぺんの向こうにあなたがいる」には、田部井さんの言葉である「人生は8合目からおもしろい」というサブタイトルがついている。禊の雨で「生まれかわりの旅」を経験した私は、これからの人生をおもしろいと感じることができるだろうか。未知の人生は、初めて行く山の頂を踏む楽しみに似ている。

（坂倉）

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第46号 2025年11月22日発行修正版

発行者：公益社団法人日本山岳会埼玉支部 支部長 大山 光一

事務局：〒358-0024 埼玉県入間市久保稲荷1-9-1-2-302 轟 涼 方

Email : stm@jac.or.jp

埼玉支部ホームページ：<https://jac.or.jp/saitama/>



写真：宮内有加 撮影地：「鳳凰三山」